

令和2年度岩手県林業技術センター機関評価及び試験研究評価実施結果

1 目的

- (1) 効率的な業務運営を図るため、機関評価を実施する。
組織、運営、研究開発、人材育成などの面から評価を行い、当センターの使命・役割の遂行状況を検証し、試験研究機関の機能強化、効率的な業務運営の推進を図る。
- (2) 試験研究の効果的・効率的な推進を図るため試験研究評価を実施する。
試験研究課題の選定から試験研究終了後の成果の普及に至るプロセスに関し、適切な評価を実施することにより、効果的・効率的な試験研究の推進を図る。
- (3) 機関評価等の客観性・透明性を確保するため、県の組織に属さない外部有識者等を評価委員とする外部評価を実施する。

2 機関評価及び外部評価委員会の開催日時等

- (1) 日時 令和2年9月17日(木) 13:30~16:30
- (2) 場所 岩手県林業技術センター 大講義室

3 評価委員

岩手県林業技術センター所長が選任、委嘱する。(任期:令和2~4年度)

所 属 等	氏 名
岩手県立大学総合政策学部教授	渋谷 晃太郎
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 東北支所長	梶本 卓也
国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場長	田中 直哉
奥州地方森林組合代表理事組合長	小原 剛一郎
岩手県木材青壮年協議会会長	佐藤 元幸
岩手建築士会	上田 吹黄

4 機関評価結果

項目について、5項目が「妥当」、4項目が「やや妥当」という評価を得た。

評 価 項 目	評 価 視 点	評 価	主 な 意 見 等
機関の運営方針・研究推進計画に関すること	県の政策・施策と業務運営方針の整合性 県の政策・施策と研究推進計画の整合性 研究推進計画への県民、企業等のニーズの反映状況	妥当: 3 やや妥当: 3 一部見直し: 0 大幅見直し: 0	・業務運営方針と県の政策・施策との整合性あり、県民ニーズも反映 ・CO2削減には森林吸収資源と再生エネルギーが重要だが、政策との整合性が必要 ・獣害防除技術の研究・実証の研究を要望
組織体制に関すること	業務全般に対するマネジメントの実施状況	妥当: 5 やや妥当: 1 一部見直し: 0 大幅見直し: 0	・内部組織の効率的・効果的な運営を期待 ・地域課題に対応した復興支援チームの設置を評価
人員の配置及び研究員の育成に関すること	人員配置の状況 研究者の育成方策	妥当: 0 やや妥当: 4 一部見直し: 2 大幅見直し: 0	・若手研究員の計画的な採用及び育成 ・将来の適切な人員配置に向けた戦略的・長期的な取り組みが重要
予算の配分と研究施設・設備に関すること	業務内容に関する経常的経費の状況 研究に必要な施設・設備の確保	妥当: 1 やや妥当: 5 一部見直し: 0 大幅見直し: 0	・外部資金導入による試験研究予算の確保 ・施設等の老朽化への対処、設備の確保

大学・企業等との連携、外部資金の導入、受託研究への対応に関すること	大学・企業等との効果的な連携の実施 積極的な競争資金への応募 受託研究への対応	妥当：2 やや妥当：4 一部見直し：0 大幅見直し：0	・大学・企業等との連携の推進 ・競争的資金の積極的獲得 ・外部機関との連携・協力による研究開発の相乗効果を意識した取り組み
研究開発に関すること	研究課題へのマネジメントの実施状況	妥当：5 やや妥当：1 一部見直し：0 大幅見直し：0	・事務的作業の簡素化による研究員の負担削減、研究開発に集中できる環境づくり
研究成果の活用に関すること	研究成果の実用化、事業化の実施状況 研究成果の普及状況 研究成果の知的財産権化、活用の的確性	妥当：4 やや妥当：2 一部見直し：0 大幅見直し：0	・研究成果の発表数が減少 ・アカマツを集成材原料に活用した成果を高く評価 ・研究成果の発表やセミナー開催による普及を期待
業務の情報発信に関すること	情報発信状況 (対象、内容、方法)	妥当：2 やや妥当：4 一部見直し：0 大幅見直し：0	・県民・業界団体のレベルに応じた情報提供 ・ホームページに「いわて林業アカデミー」のフェイスブックへのリンクを設定されたい。 ・積極的な情報発信、多方面との交流の検討
総括的事項	機関設立の意義・目的と業務内容の整合性	妥当：6 やや妥当：0 一部見直し：0 大幅見直し：0	・県の施策や地域課題に即した研究開発、適切な研究成果の普及、情報発信を評価 ・「研究」「研修」及び「普及」活動に取り組み林業振興に貢献
そ の 他			・限られた予算と人員の中、適正な取組

5 研究課題に対する評価結果

【継続課題及び終了課題】

課 題 名		評 価 (※1)	主 な 意 見 等
簡易感染診断技術を活用したマツタケ林地導入技術の開発	終了	完 了：4 継 続 延 期：1 新 規 課 題 化：1	・研究結果を活用し、後継新規課題で研究開発を進めるべきである。 ・実用化までには、解明されていない課題が多いと思われる。 ・マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発との連動を期待
広葉樹被害の把握と防除技術の開発	継続	A：4 B：2 C：0 D：0	・課題内のテーマが多く、整理して研究を進めること。 ・調査実施に係る地元関係者との調整を行うこと。 ・被害防止のため、効果的な防除技術の開発が急務である。
マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発	継続	A：6 B：0 C：0 D：0	・新技術の導入等により進捗を早めることを期待 ・マツノザイセンチュウへの抵抗性が高いアカマツの開発のため、継続的に取り組みを進める必要がある。 ・アカマツ林に付随する林産物の減少を防止するためにも、引き続き高い成果が得られるように期待する。
スギ花粉等多様な形質の家系評価と検定技術の開発	継続	A：6 B：0 C：0 D：0	・遺伝子レベルでの研究を期待 ・少花粉かつ成長等の優れたスギが育成されつつある。 ・直近の成果発信が少ないと思われる。 ・造林経費の低コスト化や花粉症対策などの課題からニーズが高く、継続的に取組む必要がある。

※1 評価 A：十分な成果が期待、優先的に取組む必要

B：一定の成果が期待、継続して取組む

C：見通しに問題、計画再考

D：中止

【事前課題】

課 題 名		評 価 (※2)	主 な 意 見 等
アカマツ伐採跡地における菌根性きのこ早期発生技術の開発	事前	A : 5 B : 1 C : 0 D : 0	<ul style="list-style-type: none"> ・前提条件などを検討の上、計画の見直しも考慮すること。 ・アカマツの多い本県において、技術の開発・普及が進めば、森林所有者の大きな収入源となる。 ・同様に、全国に先駆けて取り組むべきである。 ・期待度の高い取組であり、成果を上げて欲しい。

※2 評価 A : 提案内容で実施

B : 一部見直しの上実施

C : 計画再考

D : 不実施